

麻布東ルートの経路及びダイヤ変更について

1 背景・課題

平成22年3月から運行を開始したちいばす麻布ルートは運行距離が長く、速達性に課題があり、平成25年5月に麻布東ルートと麻布西ルートに分割しました。以降、麻布東ルートは利用者が少なく、収支率が約20%前後と路線の中で一番低い状況が続いています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用者数の減少で、令和2年度の1便あたりの平均利用者数は10人以下と想定され、特に土休日は3人程度と非常に少ない状態です。

著しく収支率の低い路線を存置し続けると路線全体の収支に大きな影響を及ぼすことから、ルート変更等の運行改善による利用者増加策を実施するとともに、ダイヤの適正化により運行経費を削減し、収支率を改善する必要があります。

2 変更内容

(1) ルート・ダイヤ

収支率の改善に向け、現状利用が少ない港区役所から芝公園を周回する部分を、要望の多い地下鉄日比谷線神谷町駅や都営大江戸線赤羽橋駅、東京タワーを經由して港区役所、六本木を往復するルートに変更します（変更ルートは経路図参照）。

また、利用実態に合わせた運行ダイヤにするため、運行間隔を平日は20分から30分、土休日は30分から60分に変更します。

(2) 停留所

ルート変更に伴い、停車する停留所を計2停留所（増設6、廃止4）増やします。

(3) 効果

- 往復利用が可能となり、かつ駅及び観光施設へのアクセスが向上するため、通勤、観光客等の新たな利用者の開拓が見込まれます。
- 特に現在利用の多い「港区役所」、「六本木けやき坂」、「神谷町駅前」停留所と、観光地である「東京タワー」を接続強化することで、利用率の向上が期待できます。
- 「虎ノ門五丁目」停留所を増設し、往復利用を可能にすることで、将来的（令和5年度予定）に再開発（虎ノ門・麻布台プロジェクト）による利用者獲得が見込めます。
- ダイヤの適正化により、運転士の人件費や燃料費等の運行経費（約1,410万円）が抑えられ、収支率の向上が期待できます。
- 減便により、1便あたりの利用者が平日1.5倍、土休日2倍に増加した場合でも、積み残しは発生しません。

【運行改善による効果試算（令和3年度）】

	想定効果	補足
ルート変更による利用者数（年間）	+約 3,000 人	・交通機能結節機能（神谷町駅、赤羽橋駅）の向上、東京タワーへのアクセス向上による増など
運行経費	-約 1,410 万円	・減便による人件費、燃料費の削減

【将来的な収支率の推移予測】



